２０２０年８月１８日
東日本旅客鉄道株式会社
一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン

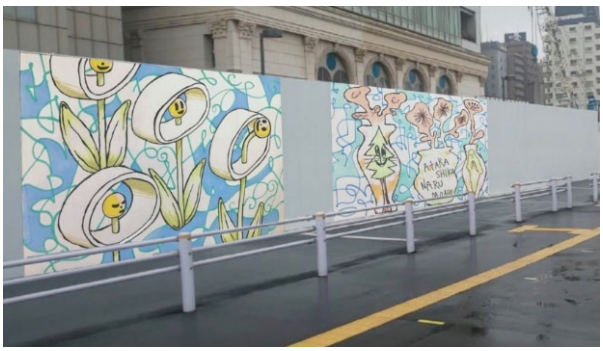
アートプロジェクト「JREAST meets ART @ Takanawa Gateway Fest」の実施について

東日本旅客鉄道株式会社(以下、JR 東日本)と一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン(以下、CVJ)は、高輪ゲートウェイ駅前特設会場にて開催中の Takanawa Gateway Fest 会場内で仮囲いを活用したアートプロジェクト「JREAST meets ART @ Takanawa Gateway Fest」を実施します。

1. 実施内容

本企画は、新型コロナウイルス感染症拡大で活動の場が限られている若手を中心としたアーティストに表現の場を提供し、支援することを目的として、JR 東日本と CVJ が共同で「JREAST meets ART @ Takanawa Gateway Fest」として開催します。約 130m の仮囲い(フラットパネル)をキャンバスに、12 名のアーティストがそれぞれ「サステナビリティ」「都市」「開発」をテーマに、本企画のために現地で制作した作品を Takanawa Gateway Fest 会場内で公開します。

＜作品イメージ＞



©NAZE

©THE COPY TRAVELERS

©Suga Takanori

©Sato Midori

主催　　：東日本旅客鉄道株式会社、一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン
協力　　：一般社団法人日本現代美術商協会（CADAN）
運営協力：藤原羽田合同会社

2. 実施期間

2020 年 8 月 18 日（火）～9 月 6 日（日） 11:00～21:00

＊天候等による作業行程変更のため、日にち・時間は変更となる場合があります。

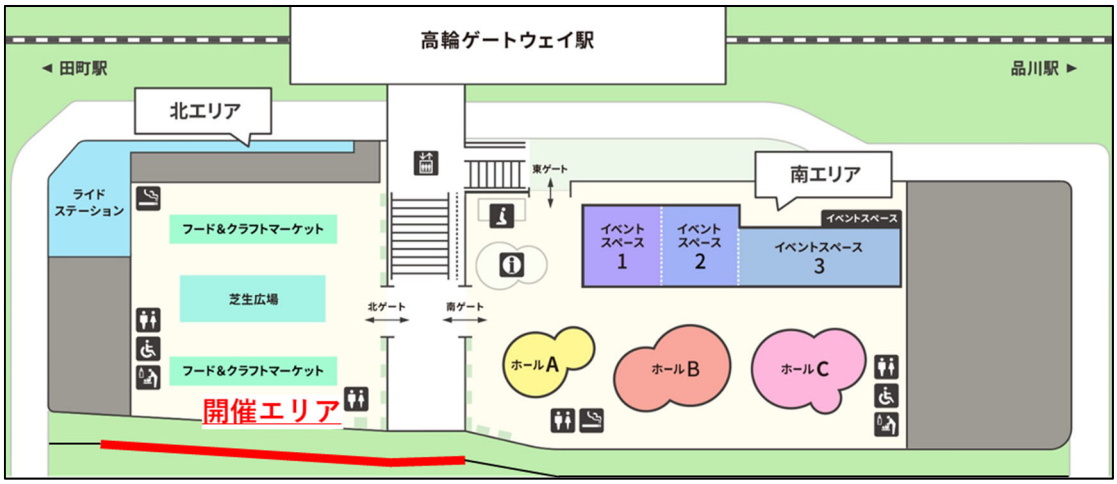
＊Takanawa Gateway Fest の入場には予約が必要です。（無料・当日予約可）

3. 参加アーティスト

狩野哲郎、坂本和也、佐藤翠、THE COPY TRAVELERS、菅隆紀、田内万里夫、田中秀和、中島崇、NAZE、松下徹、南川史門、リヴァ・クリストフ

4. 実施場所

高輪ゲートウェイ駅前特設会場「Takanawa Gateway Fest」内の仮囲い



【一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン】

アートやデザインなどのクリエイティブと産業・行政・学術が相互に刺激し合い、新たな価値を共創するプラットフォーム。クリエイティブ×産官学により、大規模国際展やシンポジウムの開催、政策提言など様々な活動を展開しています。　ウェブサイト: http://cvj.or.jp/

【Takanawa Gateway Fest】

JR 東日本が、高輪ゲートウェイ駅前に特設会場を設置し、2020 年 7 月 14 日～9 月 6 日に開催する期間限定のイベント。未来を疑似体験できるパビリオンや日本初上陸の屋外インスタレーション、日本の魅力を新しいスタイルでお届けするフードショップなどを実施しています。

ウェブサイト：https://www.takanawa-gateway-fest.com/

参加アーティストプロフィール　　（別紙）

狩野 哲郎 Kano Tetsuro

1980 年宮城県生まれ。2007 年東京造形大学大学院修了。狩野は一貫して、生物学者フォン・ユクスキュルの環世界の概念をもとに、人間の生活圏に生きる身近な生物がそれぞれの知覚によって見出す世界の多様性に興味をもっています。既製品を本来の用途からズラして組み合わせたり、植物や鳥といった「他者の視点」を作品に内在させたりしながら、狩野が生み出す風景は、彫刻や絵画としての既存の構成を残しつつも、美術とは別の価値観と多様な存在に向けられた世界観が同居しています。日本国内各地のほか、アメリカ、インドネシア、オマーン、韓国、シンガポール、ノルウェー、フィンランド、モルディブ、ルーマニアなどさまざまな国で滞在制作、発表を行う。

坂本 和也 Sakamoto Kazuya

1985 年 鳥取県生まれ。現在愛知県在住。

2012 年 名古屋芸術大学 美術学部洋画2コース 卒業。

2014 年 名古屋芸術大学大学院美術研究科美術専攻同時代表現研究領域 修了。

2017-18 年 文化庁海外派遣制度にて台北に派遣。

自身の趣味である水草の飼育を通して生態系の構成要素のなかに現代の社会環境と自身を取り巻く生活との類似性をみたことから、植物を題材にして作品に表している。アジアを中心に活躍の場を広げている。

[近年の主な個展]

2020 年 Spring ephemeral, nca | nichido contemporary art, 東京

2018 年 Symbiosis, galerie nichido Taipei, 台北

2017 年　坂本和也 – Landscape gardening –, 米子市美術館, 鳥取

2016 年　Between Breaths, nca | nichido contemporary art, 東京

[近年の主なグループ展]

2020 年 Next World—夢みるチカラ タグチ・アートコレクション×いわき市立美術館, いわき (upcoming)

2017 年　identity XIII – curated by Daisuke Miyatsu–, nca | nichido contemporary art, 東京

2015 年　豊穣なるもの　現代美術 in 豊川, 豊川市桜ヶ丘ミュージアム, 愛知

2014 年　Some Like It Witty, Gallery EXIT, 香港

佐藤 翠 Sato Midori

1984 年愛知県生まれ。2008 年名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業。在学中ディジョン国立美術大学(フランス)へ交換留学し、2010 年東京造形大学大学院造形学部修士課程を修了。平成 29 年度ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスにて研修を行った。

主な個展に「Diaphanous petals」(ポーラ美術館アトリウム ギャラリー、神奈川、2019 年)、「Bouquets」(8/ ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery、東京、2019 年)、「Orange glow」(Green Art Flowers Gallery、パリ、フランス、2018 年)、「Reflections」(Roppongi Hills A/D Gallery、東京、2017 年)など。主なグループ展に「あいちトリエンナーレ 2016 虹のキャラヴァンサライ」(愛知、2016 年)、「絵画を抱きしめて Embracing for Painting ー阿部未奈子・佐藤翠・流麻二果展ー」(資生堂ギャラリー、東京、2015 年)など。

作品は、芥川賞受賞作家・中村文則の小説『去年の冬、きみと別れ』(幻冬舎、2013 年)、女性作家集団「アミの会(仮)」の短編小説集『アンソロジー 嘘と約束』(光文社、2019 年)の装画や、コスメブランド「RMK」とのコラボレーションによるメイクアップキットが販売されるなど、その活躍の場を広げている。「VOCA 展 2013 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」(2013 年、上野の森美術館、東京)では大原美術館賞を受賞、作品は同美術館に収蔵。

THE COPY TRAVELERS

photo: ©KIM JUWON

京都を拠点として活動する美術家、加納俊輔、迫鉄平、上田良によって 2014 年に結成されたユニット。

個々の活動でも写真や映像をメインに活動している三人のエッセンスをミックスしながら、「複製」という手法の可能性について、コピー機やスキャナ、カメラなどのツールを用いて、日々、実験に勤しんでいる。アートブックの出版をはじめ、展覧会、ワークショップなどの活動を行なっている。

菅 隆紀 Suga Takanori

1985 年長崎県生まれ。2009 年愛知県立芸術大学卒業。

自らの存在を路上に記述するグラフィティの表現を参照しながら、人間の根源的な行為や欲求をテーマに、絵画的技法を用いて表現している。

2014 年、オーストラリアを 放浪中にアボリジニ文化に影響を受け、出会った老人の 古民家にて滞在制作を行う。これまでに、ドリッピンクプロジェクト（2013 年、京都府庁旧本館 Musee Acta）、駒込倉庫（2015 年、コミッションワーク）、KyojitsuHiniku(2018 年ブラジル日本移民 110 周年記念 現代美術展サンパウロ）になど、国内外で展示。2016 年マネックス証券が主催する「ART IN THE OFFICE Program」にてグランプリを受賞。

田内 万里夫 Tauchi Mairo

1973 年埼玉県生まれ。1998 年テンプル大学教養学部英文学科卒業。東京都在住。

2001 年に曼陀羅のイメージを得て描きはじめる。東京、ニューヨーク、ロンドン、アムステルダム、フランクフルト、香港など、国内外で活動を展開。また、作品としての発表をおこないながら、音楽家や詩人、パフォーマーとのライブ・パフォーマンス、店舗等の壁画制作、書籍の装画など幅広く活動をする注目の作家。

[主な展覧会]

2019 年 マリオ曼陀羅展 HACO NYC（ニューヨーク）

2018 年 マリオ 曼陀羅 Mario Mandala / 田内 万里夫展 Tobin Ohashi Gallery（東京）

2015 年 マリオ曼陀羅ぐるぐる展 FABulous Art Gallery（東京）

2011 年 WA Gensler（サンフランシスコ）

2010 年 マリオ曼陀羅展 ギャラリーヤマキファインアート（神戸）

2007 年 Psyche-Ga-Delic – Trolley Gallery（ロンドン）

[主なコミッションワーク・パフォーマンス]

2018 年 モーラム酒店/壁画(東京)

2014 年 ショーウィンドウ作成/ライブパフォーマンス – American Book Center（アムステルダム）

2012 年 キース・ヘリング展 LOVE POP! 壁画プロジェクト「キースの願った平和の実現を願って」
伊丹市立美術館（兵庫）

田中 秀和 Tanaka Hidekazu

[個展]

2020 年 "Chunks of play" COHJU contemporary art, 京都

2018 年 "Dimention f=time" gallery haku, 京都

2017 年 "WAKE" ART no SHOW 土庄港フェリーターミナル, 香川

2015 年 ″Timepective″ gallery@kcua, 京都

2013 年 ″coffee & art″ 水戸芸術館 地域連携プログラム, 茨城

2012 年 ″sphere of activity″ 児玉画廊, 京都

1999 年 gallery coco, 京都

[グループ展]

2018 年 ″NATIVE : Manchester″ Paper Gallery, Manchester

2017 年 ″VOCA 展 2017″ 上野の森美術館, 東京

2016 年 ″New Positions 2016 – 日本の抽象絵画–″ Taguchi fine art, 東京

2013 年 ″ アートがあれば II″ 東京オペラシティアートギャラリー, 東京

″ メメント・モリ一愛と死を見つめて一″ 白金アートコンプレックス, 東京

2008 年 ″Exhibition as media ″LOCUS″ 神戸アートビレッジセンター, 兵庫

2005 年 ″ 新・公募展″ 広島市現代美術館, 広島（ 奨励賞）

[受賞歴]

2005 年 ″ 新・公募展″ 広島市現代美術館, 広島（ 奨励賞）

[コミッションワーク]

2018 年 ″WAKE YUKATA SHOW″ BOUTIQUE JUNKO KOSHINO, 東京

2018 年 “ PEGGY LANA & Cloud Painting”2018S/S アパレルブランド PEGGY LANA コラボレーション

2017 年 “ ART no SHOW” 小豆島土庄港フェリーターミナル壁画

中島 崇 Nakajima Takashi

1972 年生まれ。現在、東京都大田区在住。1994 年 桑沢デザイン研究所 写真研究科卒業

2001 年 ベルリン在住 | ドイツ 2014, 2016 年 摘水軒記念文化振興財団助成

[主な個展（ 2010 年～)]

2020 年 交流の形 form of exchange <交換形式> /SHIBAURA HOUSE, 東京

2017 年 日々の機微 / Gallery OUT of PLACE TOKIO, 東京

2015 年 キクスル : ナレッジキャピタルフェスティバル／グランフロント大阪, 大阪

[主なグループ展（ 2009～)）

2019 年 鉄工島フェス「IRON ISLAND FES」京浜島, 東京

2019 年 象の鼻テラス開館 10 周年記念展「フューチャースケープ・プロジェクト」, 横浜

2018 年 交差する平行線//parallèles obliques 住吉町新井ビル, 横浜

2017 年 絵と言葉のまじわりが物語のはじまり 太田市美術館・図書館, 群馬

NAZE

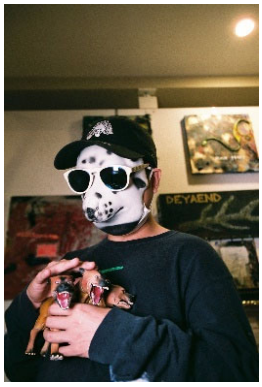


photo by ikeno shiori

1989 年茨城県生まれ。グラフィティカルチャーをベースに、触覚的な筆致で描かれるドローイング、スプレーやコラージュを用いたペインティングや、廃棄物を使ったオブジェ、テキスタイルワークなどの作品を制作している。また、contact Gonzo としても活動を行う。近年の主な展覧会に、「ceramic scramble」(ゲンロン カオス*ラウンジ 五反田アトリエ、東京、2019)、「net/stoke GRAFFITI」(Vincom Center for Contemporary Art、ベトナム、2017)、「VOCA 展 2016」(上野の森美術館、東京、2016)、「鉄道芸術祭 vol.5」(アートエリア B1、大阪、2015)などがある。

松下徹 Matsushita Tohru

©Tohru Matsushita / photo by KABO

1984 年 神奈川県生まれ。2010 年 東京藝術大学先端芸術表現科大学院卒業。2012 年[SIDE CORE]として活動をはじめる。

[主な個展]

2019 年 [CUTTER] SNOW CONTEMPORARY(東京)

2018 年 [ROOM of JOBAN]SNOW CONTEMPORARY(東京)

2014 年 WRECKAGE(東京)

2013 年 Mural at Bondst.(東京)

2012 年 [Abstracted and Abandoned]island MEDIUM（東京）

2011 年 [Kelen]island MEDIUM（東京）[one million years]Red Eration gallery（香港）

[主なグループ展]

2018 年 [OPEN CITY] 浜松、Commision project by Facebook Japan、[Room of Shibuya] @Art Photo Tokyo、[ENISHI]渋谷西武ギャラリー、Commision project by ISETAN department store

2016 年 [ソノアイダ#4-](東京)

2015 年 [SIDE CORE -TOKYO WALKMAN-](東京)

[NEW NOMAL -presented by Anagura and SIDE CORE](東京)

2014 年 [Arafudo Art Annual](福島)、[WRECKAGE-BLOCK HOUSE-](東京)

[Recent Works]3331(東京)、[KISS THE HEART#3]銀座三越（東京）

2013 年 [Phase Transition]JR 上野駅(東京)、[サイドコア-身体／媒体／グラフィティ-]

Terratoria（東京）、[TRICK-DIMENSION]TOLOT（東京）

2012 年 [アーホ展]フジテレビ(東京)、[渋谷スタイル vol.6]渋谷西武(東京)

[鎌倉現代アートプロジェクト]NICHE Gallery(東京)、[VOCA 展]上野の森美術館

[ART FAIR TOKYO 2012]東京国際フォーラム(東京)、

[parallel wave]Red Eration gallery(香港)、[synthesize]Blijven（東京）

[1 枚の絵の力]NADiff(東京)、[サイドコア-日本美術とストリートの感性-](東京)

[f/f - f/r](東京)

2011 年 [1枚の絵の力]3331Arts Chiyoda（東京）

[island SUMMER collection 2011]island MEDIUM（東京）

[ART FAIR TOKYO 2011]東京国際フォーラム(東京)

2010 年 [island loves FRESH]island (千葉)、[Art Award Tokyo]地下行幸通り(東京)

〈甑アートプロジェクト〉甑島（鹿児島）

2009 年 [横浜高島屋50周年記念展覧会]高島屋 (神奈川)

[WORM HOLE episode 11]magical, ARTROOM (東京)

南川 史門 Minamikawa Shimon

1972 年東京生まれ。現在は東京を拠点に制作活動を行う。近年、数回に渡り展開してきた看板絵画（通称）を基盤としながら、新作の写真、映像、絵画を発表しています。

[主な展覧会]

2019 年ルル アネックス、メキシコシティー（個展｜キュレーション：クリス・シャープ）

「MOT コレクション ただいま／はじめまして」東京都現代美術館、東京（グループ展）

2017 年「私たちの言葉」MISAKO & ROSEN、東京（個展）

2015 年「PAINTING 2.0: EXPRESSION IN THE INFORMATION AGE」ブランドホルスト美術館

ミュンヘン（グループ展）

2014 年「絵画の在りか」東京オペラシティーアートギャラリー、東京（グループ展）

2013 年「アウト・オブ・ダウト 六本木クロッシング 2013」森美術館、東京（グループ展）

2012 年「リアル・ジャパネスク － 世界の中の日本現代美術」国立国際美術館、大阪（グループ展）

[パブリックコレクション]

東京都現代美術館（東京）、国立国際美術館（大阪）、国立現代美術館 MMCA(ソウル)

リヴァ・クリストフ RIva Christophe

フランス人と日本人の両親を持ち、幼少から日仏中と多様な都市での生活経験を経て独特なアート表現を試みている。